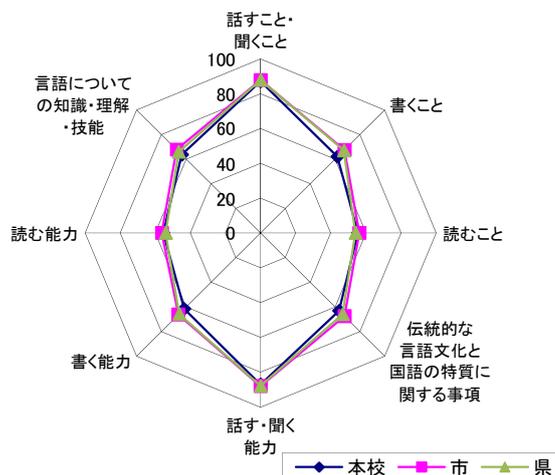


宇都宮市立陽南小学校第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	87.1	87.9	87.8
	書くこと	62.0	67.6	67.1
	読むこと	55.5	56.3	54.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	63.2	67.6	66.0
観点	話す・聞く能力	87.1	87.9	87.8
	書く能力	61.6	66.3	65.7
	読む能力	55.5	56.3	54.1
	言語についての知識・理解・技能	63.6	67.7	66.0



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○概ね市の平均値、県の平均値に近い。特に、「互いの考えの共通点や相違点を理解して聞く問題」や「話の中心に気を付けて聞く問題」では、正答率が90%を超えている。 ●「話し方の工夫に気を付けて聞く問題」では、市や県の平均を約3ポイント下回り、73%の正答率である。	・授業の中で話し合い活動を多く取り入れてきたことが、平均維持の理由と考えられる。これまでは、特定の児童による司会・進行が多かったが、今後はより多くの児童が何かしらの役割を持った話し合いの経験を重ねるようにしたい。国語の授業だけでなく、学級活動や総合的な学習の時間との関連付けを図る。
書くこと	○「招待する手紙の形式を理解し、あいさつの言葉を書く問題」では、市の平均を0.6ポイント上回っている。 ●全体で、市の平均を5.6ポイント、県の平均を5.1ポイント下回っている。特に、「招待する手紙で読み手に伝えたい事柄を正確に伝えられるように注意して書く問題」では、市の平均を約9ポイント下回っている。	・国語の授業だけでなく、学級活動や総合的な学習の時間との関連付けを図ってきたことが、あいさつに関する理解を深めたと考えられる。今後は、教師主体で進めた招待文を、児童の体験として学習できるように国語の授業で関連付ける機会を設けたい。
読むこと	○県の平均を1.4ポイント上回っている。特に「説明文を目的や必要に応じて、文章の内容を読む問題」と「物語の登場人物の気持ちを想像する問題」では、県の平均をそれぞれ6.7ポイント、4.7ポイントも上回っている。 ●「物語各場面の移り変わりを基にして読む問題」では市の平均を2.3ポイント下回っている。	・司書教諭を中心とした読書活動が、児童の本好きを膨らませている。更に、読書紹介カードや本の帯作りなどの活動の機会を増やしていきたい。物語の読み取りでは、段落のつながりや展開を意識できるような学習方法を工夫する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「日常使われている簡単な単語のローマ字による書き方の理解」は、市の平均を2ポイント、県の平均を3ポイント上回っている。 ●全体として、市の平均を4.4ポイント、県の平均を2.8ポイント下回っている。「漢字の書き」では、県の平均を14.6ポイント下回っている。	・今後は、朝の学習等を通して、徹底した反復練習を行っていく。更に、新出漢字や身に付いていない既習漢字の練習に地道に取り組める姿勢の育成に努める。そのために、授業の中で学び方を指導し、家庭での自主学習に繋げていく。